

5歳から11歳のお子様の保護者の方へ 〈新型コロナワクチン接種(3回目)のお知らせ〉



3



5歳から11歳のお子様も、

3回目接種が受けられるようになりました。



Q. なぜ追加接種(3回目接種)が必要なのでしょう?

A. 子どもの感染者数の増加とともに、重症者数も増加傾向にあります。初回接種(1・2回目接種)後、時間経過とともに発症予防効果が低下しますが、追加接種(3回目接種)を行うことにより効果が回復すると報告されています。ぜひ、お子様と一緒に3回目接種をご検討ください。

接種の対象と使用するワクチン

- 1・2回目接種を完了した5～11歳のお子様を対象です。
- 1・2回目接種を完了し、5か月以上、間隔を空けて接種します。ファイザー社の5～11歳用のワクチンを使用します(※)。(※)ファイザー社の12歳以上のものに比べ、有効成分が1/3になっています。



新型コロナワクチンの効果

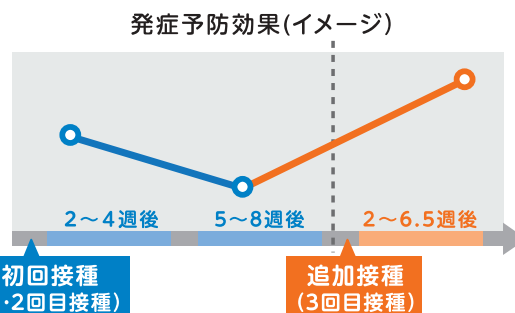
Q. 3回目接種をすることで、どんな効果がありますか?

A. 新型コロナワクチンを受けることで、新型コロナに感染しても症状が出にくくなります。5～11歳の子どもに対するワクチンの追加接種後は、オミクロン株を含む新型コロナウイルスに対する中和抗体価(※)が上昇します。また、時間経過とともに低下した初回接種による発症予防効果が、追加接種により回復すると報告されています。

(※)ウイルスの感染力や毒素の活性を中和できる抗体の値のこと

出典：特例承認に係る報告書

Fleming-Dutra KE, Britton A, Shang N, et al. Association of Prior BNT162b2 COVID-19 Vaccination With Symptomatic SARS-CoV-2 Infection in Children and Adolescents During Omicron Predominance. JAMA. 2022;327(22):2210-2219.



新型コロナワクチンの安全性

Q. 3回目接種を受けた後は、2回目接種の後と比べてどんな症状が出ますか?

A. 5～11歳の子どもに対する3回目の接種後7日以内の副反応は、1・2回目接種の後と比べると、おおむね同様の症状が見られ、2回目接種時を上回るリスクは報告されていません。

■5～11歳の接種後7日間に現れた症状発現率の比較(ファイザー社ワクチンを使用)

報告割合	接種後の症状(2回目接種後→3回目接種後の症状の発現率)		
50%以上	疼痛(72.2→73.9%)		
10～50%	疲労(46.6→45.6%)	頭痛(30.1→34.0%)	筋肉痛(12.5→18.3%)
	発赤(16.5→15.6%)	腫脹(14.0→16.4%)	悪寒(10.3→10.5%)
1～10%	発熱(8.8→6.7%)	関節痛(5.5→6.7%)	下痢(6.5→4.9%)
	嘔吐(1.8→2.4%)		

出典：特例承認に係る報告書



5～11歳用のワクチンがオミクロン株流行下でも有効であるとの最新情報を踏まえ、5歳から11歳のお子様にはワクチンを受けていただけるよう、ご本人とその保護者の方に努めていただくことになりました。これは、国民の皆さまに接種にご協力いただきたいという趣旨によるものであり、接種を強制するものではありません。詳しくは厚生労働省ホームページQ&Aをご覧ください。→





新型コロナワクチンを受けるには

◎5歳から11歳のお子様のワクチン接種には、保護者の方の同意と立ち合いが必要です。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方についての正しい情報を確認し、お子様とご相談のうえ、保護者の方に接種をご判断いただきますようお願いいたします。保護者の方の同意なく、接種が行われることはありません。

周りの方に接種を強制したり、接種していない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。



◎ワクチンについての疑問があるときはかかりつけ医などにご相談ください。

新型コロナワクチンと他のワクチンとの接種間隔などについては、かかりつけ医などにご相談ください。同時または前後2週間は、インフルエンザワクチンを除き、原則として、他のワクチンを受けることはできません。また、お子様に基礎疾患があるときなど、ワクチンについての疑問や不安があるときも、かかりつけ医などによくご相談ください。

ご相談先など

◎新型コロナワクチンに関するご相談先

ワクチン接種後に、体に異常があるとき	➡	ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医、市町村や都道府県の窓口
ワクチン接種全般に関するお問い合わせ	➡	市町村の窓口



◎予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

新型コロナワクチンの予防接種によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済(医療費・障害年金の給付など)が受けられます(※)。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

(※)その健康被害が、接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、市町村により給付が行われます。認定にあたっては、予防接種・感染症・医療・法律の専門家により構成される国の疾病・障害認定審査会により、因果関係を判断する審査が行われます。

ワクチンを受けた人もいれば、受けていない人もいます。ワクチンを受けた後も、今までのように、しっかり手洗い・消毒、マスクなどの感染予防対策を続けましょう。



密集した場所



密接した場面



密閉された空間



マスクの着用(※)



石けんで手洗い



手指の消毒



こまめな換気

(※)屋外では、人と会話をするとき以外は、熱中症を防ぐためにもマスクを外しましょう。

子どもに対する新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン 子ども 検索

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。



新型コロナウイルスワクチン接種(3回目)についてのお知らせ



新型コロナウイルスをなぜ受けるの？

人の体の中に新型コロナウイルスが入りこみ仲間が増えると、
ねつ、だるさ、せき、息ぐるしさ、頭のいたみ、味覚の変化などがおきて、
体の調子が悪くなります。
ワクチンを受けると、体の中で新型コロナウイルスとたたかう用意ができる
ので、ウイルスが体に入っても、体の調子が悪くなりにくくなります。



新型コロナウイルスを受けるときは、どんなことに注意すればいいの？

受ける前	37.5℃以上のねつがあるときや、体の調子が悪いときは、 ワクチンを受けられないので、そのことをおうちの人に伝えましょう。	
受ける時	ワクチンは肩の近くに注射します。肩を出しやすい服で、受けに行きましょう。	
受けた後	◎ ワクチンを受けた後、 15分以上はすわって様 子をみましょう。(30分様 子をみる場合もあります) ◎ ワクチンを受けると、右のような症状 が出ることがありますが、2～3日で自 然とよくなることがわかっています。	◎ 当日はお風呂に入るなど、 いつも通りの生活をする のは問題ありませんが、激 しい運動はやめましょう。 ☐ ねつ ☐ さむけ ☐ だるさ ☐ 気持ちわるさ ☐ 頭のいたみ ☐ おなかをこわす

こんな症状が出たら、おうちの人や周りの大人に知らせましょう。

● 受けたすぐ後

- ☐ 体のかゆさ
☐ せき



● 受けた日や4日くらいの間

- ☐ ねつ ☐ 頭のいたみ ☐ 胸のいたみ ☐ 息ぐるしさ
☐ だるさ ☐ さむけ ☐ 胸がドキドキした感じ



1・2回目のワクチンを受けた後、 5か月以上の間をあけて、3回目を受けてください。



守ってほしい、大切なこと。

ワクチンを早く受けている人や、ワクチンを受けられない理由が
ある人など、様々な人がいます。ワクチンを受けている、受けて
いないといった理由で周りの人を悪く言ったり、いじめたりす
ることは、絶対にしてはいけません。



新型コロナワクチンについて 考えましょう!

こ さま む
お子様向け

うちたい
理由は?

じぶん
自分も
まわりの人も
安心して
安心できるから

パパや
ママが
うっているから

おじいちゃん、
おばあちゃんに
会えるから

コロナが早く
終わってほしい、
友達とずっと
遊びたい



ワクチン
うったほうがいい?
うたなくていい?

うちたくない
理由は?

ねつ
熱とか
でるのが
こわい

いた
痛いのは
イヤ

子どもは
かんせんしても
すぐなおるから

新型コロナワクチンをなぜ受けるの?

人の体の中に新型コロナウイルスが入りこみ仲間が増えると、ねつ、だるさ、せき、息ぐるしさ、頭のいたみ、味覚の変化などがおきて、体の調子が悪くなります。

ワクチンを受けると、体の中で新型コロナウイルスとたたかう用意ができるので、ウイルスが体に入っても、体の調子が悪くならなくなります。

ワクチンを受けた後

ワクチンを受けると、以下の症状がでることがありますが、2～3日で自然と良くなることわかっています。

- ねつ ●気持ち悪さ ●だるさ
- おなかをこわす ●頭のいたみ ●さむけ

ワクチンのこと、おうちの人とよくお話ししましょう。

守ってほしい、たいせつなこと

ワクチンを受けたい人も受けたくない人もいます。アレルギーなどで受けられない人もいます。

ワクチンを受けているから、受けていないからといって、
周りの人を悪く言ったり、いじめたりすることは、絶対にやめましょう。



北海道

北海道保健福祉部感染症対策局
感染症対策課(ワクチン班)

一般社団法人 北海道医師会(監修)

イラスト:榎本菜摘(第4回北のまんが大賞 まんが部門 知事賞受賞)

5歳から11歳の方も、
新型コロナワクチン接種を受けられます。

お子様のワクチン接種について 考えましょう!

接種させたい
理由は?

祖父母に
会わせたい、
日常生活を
取り戻したい

子どもに
基礎疾患が
あるので重症化が
心配

感染して
後遺症に
悩んでいる中学生を
知っている

新型コロナワクチン
接種させたいほうがいい?
させないほうがいい?

接種させたくない
理由は?

アレルギーが
あるので
副反応が心配

ワクチンの
効果が疑問、
安全性が不安

子どもは
重症化しないので、
大人の都合で
受けさせたくない

不確かな情報に惑わされず、正しい知識でお子様と一緒に考えましょう。

小児への接種は、強制されるものではありません。

ワクチンについての疑問や不安があるときは、かかりつけ医などにご相談ください。

新型コロナワクチンの

効果

新型コロナワクチンを受けることで、
新型コロナに感染しても症状が出にくくなります。



新型コロナワクチンの

必要性

小児においても中等症や重症例が確認されており、特に基礎疾患を有する等、重症化するリスクが高い小児には接種の機会を提供することが望ましいとされています。また、今後、新たな変異株が流行することも想定されるため、小児を対象にワクチン接種をすすめることとされました。

新型コロナワクチンの

副反応

子どもが新型コロナワクチンを受けた後は、注射した部分の痛みが一番多く現れます。疲れた感じや発熱などは、1回目よりも2回目の後の方が多く現れます。ワクチンを受けた後の症状は、ほとんどが軽症又は中等度であり、安全性に重大な懸念は認められないと判断されています。

子どもに対する新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン 子ども

検索

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。



小児（5歳から11歳）のワクチン接種に関する基本情報

参考資料

接種対象	原則、日本国内に住民登録のある 5～11歳 の方です。（国籍は問いません。） 国では、特に、慢性呼吸器疾患、先天性心疾患など、重症化リスクの高い基礎疾患を有する方に接種を勧めています。（あらかじめかかりつけ医等とよく相談してください。）
使用するワクチン	ファイザー社の小児用ワクチン （分量は12歳以上のワクチンの3分の1） 小児用ワクチンでは1回目の接種時の年齢に基づいて判断します。1回目の接種時に11歳だったお子様が、2回目接種時まで12歳の誕生日を迎えた場合は、2回目接種も1回目と同じ小児用ワクチンを使用します。
初回接種（1回目、2回目）	初回接種 2回（1回目と2回目の接種間隔は3週間） 1回目の接種から間隔が3週間を超えた場合、1回目から受け直す必要はありません。できるだけ速やかに2回目の接種を受けていただくことをお勧めします。
追加接種（3回目）	初回接種からの 接種間隔は5ヶ月 です。
接種を受ける際の費用	全額公費で接種を行うため、 無料で接種 できます。
接種が受けられる場所	医療機関や接種会場は、各市町村からの案内文書、ホームページや広報、接種総合サイト「 コロナワクチンナビ 」などでご確認ください。 コロナワクチンナビ https://v-sys.mhlw.go.jp/
ワクチン接種の必要性	小児においても中等症や重症例が確認されており、特に基礎疾患を有する等、重症化するリスクが高い小児には接種の機会を提供されています。今後様々な変異株が流行することも想定されるため、小児を対象にワクチン接種を進めることとされました。 厚生労働省Q&A https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0113.html
ワクチンの副反応	接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等、様々な症状が確認されていますが、ほとんどが軽度又は中等度であり回復していること、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められていないと判断されています 厚生労働省Q&A https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0116.html
接種を受ける際の保護者の同意	新型コロナワクチンの接種を受けることは強制ではありません 。予防接種の効果と副反応のリスクの双方についてしっかり情報提供が行われた上で、接種を受ける方の同意がある場合に限り、自らの意思で接種を受けていただいています。 16歳未満の方の場合は、原則、保護者（親権者または後見人）の同伴と予診票への保護者の署名が必要となり、保護者の同意なく接種が行われることはありません 。